

「福祉×くらし」のインクルーシブタウン情報誌

KOMPEITO

[コンペイトー]

別府発!
キラキラ笑顔が詰まつた
まちの情報誌
インクルーシブな

創刊号

VOL.01

[2025.3発行]

TAKE
FREE

ご自由に
お持ち帰りください



小さな一粒から大きな物語へ
大分・別府でかがやく「ひと」

※本冊子は、令和6年度別府市市民活動支援補助金の助成を受けています。

業界最安値水準/
SEO記事・取材記事・コンテンツ記事・文字起こしなど…

丸投げ
OK!!

格安記事作成代行 - MokuMoku -

1文字 2.5円～ 1記事 18,000円～

MokuMokuのサービス特徴

初期費用 0円(無料) 単月更新OK! 1ヶ月～ お試し発注OK! 1記事～

オールジャンル対応可能

MokuMokuでは専門性の高いジャンルから、流行、ニッチなものまで幅広く対応しています。

金融 美容 健康 不動産 AI 市場調査
物流 法律 飲食 教育 人権・福祉 介護

詳しい情報は
こちら

QRコード

自宅で学び、ライターとして新しいキャリアへ
**もくもくライタースクール
受講生募集中!**

文章を書くのは好きだけど、仕事に繋げられない
自分に合った働き方が見つからない
就職もフリーランスも不安だらけ

ライターとして働くためのノウハウが学べる教材を約50本提供!
さまざまな“書く仕事”につながるカリキュラムを充実させています。

わたしらしく働ける“居場所”をすべての方へ!

入学金無料! 1コンテンツ 330円からの低価格!
メディアサイトで 実績を積める!
ライタープロダクションに 所属して働ける!

登録無料! 学べるカリキュラムは
下記バーコードよりご覧ください。

QRコード



特定非営利活動法人こんぺいとう企画

大分県別府市弓ヶ浜町1-28 別府コージェマンション 301
電話: 0977-76-8601 WEB: <https://kompeito.org/>



PROFILE 豆塚エリ(まめつかえり)

詩人・エッセイスト。大分県在住。16歳の時に自殺未遂。頸髄を損傷し車いす生活に。2013年にこんべき出版を立ち上げ、自費出版を開始。2016年よりNHKハートネットTVコメンテーターなど務める。2022年、エッセイ「しにたい気持ちが消えるまで」を出版し大きな反響を呼ぶ。執筆活動、自殺予防の全国講演を行う。2023年、障害者の就労支援を行うためNPO法人こんぺいとう企画を立ち上げる。

豆塚エリさん NPO法人こんぺいとう企画 理事長

小さな一粒から大きな物語へ
新たな未来地図を障害当事者の手で描く

「小さな声」から始まった試みは
言葉にならない思いを
伝えようとする勇気を纏つて
きらきらきれいな金平糖になる
ふたつとない優しい色
かけがえのない個性的な形
わたしを含めた誰かのために
今日もわたしは生きていく

「福祉×くらし」のインクルーシブタウン情報誌 コンペイトー創刊

「障害の有無にかかわらず、いろんな人が同じ町で、ともに暮らしている」

これまでフォーカスされてこなかった、そんな当たり前のこと

気づき、考え、思いを伝える機会を作りたい――。

大分・別府で活動する障害当事者や、それを取りまく人の声、

インクルーシブな視点を取り入れた観光・くらし情報を発信する、

「誰もが自分らしく生きる地域社会」のための

タウン情報誌『コンペイトー』が誕生しました。

地域に根ざし、そこに生きる人々の思いに耳を傾けながら、

いろいろな立場の人たちがつながるきっかけを作る、そんな一冊をお届けします。

CONTENTS

最高の一一杯をつくるために	03
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	06
新たな未来地図を障害当事者の手で描く	08
豆塚エリ	10
最高の一一杯をつくるために	12
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	14
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	16
豆塚エリ	18
最高の一一杯をつくるために	20
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	22
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	24
豆塚エリ	26
最高の一一杯をつくるために	28
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	30
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	32
豆塚エリ	34
最高の一一杯をつくるために	36
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	38
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	40
豆塚エリ	42
最高の一一杯をつくるために	44
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	46
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	48
豆塚エリ	50
最高の一一杯をつくるために	52
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	54
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	56
豆塚エリ	58
最高の一一杯をつくるために	60
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	62
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	64
豆塚エリ	66
最高の一一杯をつくるために	68
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	70
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	72
豆塚エリ	74
最高の一一杯をつくるために	76
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	78
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	80
豆塚エリ	82
最高の一一杯をつくるために	84
思わず頬がほころぶ、だわりのクッキー	86
新たに未来地図を障害当事者の手で描く	88
豆塚エリ	90

※本誌には一部PRが含まれています

障害を抱えた人たちが

“書く”ことを通じて

社会に参加し、学びあい、

企業や地域とつながる

機会を作りたい

10年ほど前、雑誌の編集という仕事に憧れを抱いていた私は『コンペイトー』という名前のA5サイズの冊子を作っていた。テーマは「お隣文学」。身近にいる友人や近所の人、あるいはたまたま喫茶店で顔見知りになつただけの人たちにペンを握つてもらい、ちょっとした文芸作品を書き集める試みだ。若さゆえの勢いと熱意で始めた企画だったが、意外にも11巻まで発行できた。市販の文芸誌とは違い、書き手は必ずしも文才があるわけではない。それでも、誰かが心の奥底で思つていることや、小さな日常の気づきを文章にしてもらうと、その人の輪郭がいつそう鮮明に浮かび上がり、どこか心に残る味わいがあつた。

でひそやかに燃え始めたようと思う。

ところが、その頃の私にとって『コンペイトー』は、まだ「自分の内面をさらけ出す場」ではなかった。私は16歳のときに自殺を図り、頸髄を損傷して車いす生活を送るようになつたが、そのことを正面から文章に書くのは怖かった。障害を抱えた自分の痛みや苦しみを、人前にさらけ出すわけにはいかないと感じていたのだ。同時に、「私のような存在も町にいるのだ」と知つてほしい気持ちもどこかにあつた。そうした相反する感情の揺れこそが、『コンペイトー』づくりの原点だったのかもしれない。

車いすになつた当初は、「人の役に立たなければ生きている意味がない」という思い込みで自分を追い詰めていた。若さゆえの

送るのは今も楽ではない。特に地方都市はバリアフリー化が遅れているため、通勤や外出そのものが高いハードルになりがちだ。さらに女性であることで、体力面や家庭環境など、さまざまな要素がからむ。しかし、コロナ禍によって急速に普及したリモートワークは、私たち障害当事者に新たな道を示してくれた。職場に毎日出向かずとも執筆やオンラインミーティングで社会に参加できると知ったとき、「これなら自分にもできそうだ」という光が差し込んだのである。

その後、私は『しにたい気持ちが消えるまで(三栄)』という自伝的エッセイを出版し、自分の問題や、それをどう乗り越えたか(あるいは乗り越えられなかつたか)を記した。

文章化することで思考が整理され、心の風通しがよくなるばかりか、読んで共感や理解を示してくれる人たちとの縁も広がっていった。「障害当事者が書く」という行為そのものが、社会とつながるための大切な第一歩になるのだと実感した。

企画の理事長として、再び「コンペイトー」という雑誌を作ろうとしている。今度は初めから、障害当事者のライターや、過去にうつ病や不登校などで社会との接点を失いかけていた人たちに積極的に声をかけるつもりだ。町の中にあふれる企業やお店を取材し、人びとにインタビューを行い、記事をまとめる。リモートツールも活用して、「合理的配慮」を最大限取り入れながら、自分のペースで社会に触れてもらう仕組みを整えたい。一人ひとりが「ここまでできるんだ」と感じられるようになるのが理想だ。

ところで、『コンペイトー』の由来でもある金平糖は、砂糖の粒を種にして、2週間以上かけて少しづつ糖液を絡めることで作られる。同じ形は一つとなく、それぞれの角や色合いが微妙に異なる。そんな唯一無二の個性が、焦らずに育まれていく過程こそがこの菓子の魅力だ。私が目指す雑誌『コンペイトー』にも、まさにその“丁寧さ”を大切にしたい。あらゆる違いや個性を尊重し、一人ひとりがゆつくりと自分の声を育てていく。その姿勢が、多様性に富んだ社会を築く第二歩になると信じている。



ただ、書いてくれる当事者ライターへの報酬は絶対に欠かせない。障害者アートや障害者労働が安価なものとして扱われがちな現状を変えたいからこそ、スponサーを募り、きちんと対価を支払う仕組みを整そらるのは私たちN P O 法人の役目だ。人が持続的に取り組むには、経済的な基盤が必要

かつての『コンペイトー』からずっと、私の思いは形を変えつつも根っここの部分は変わらない。誰かの胸の奥にある言葉にならな
い思いを丁寧に拾い、自分なりの筆致で社
会に放つてみる。そこから何かが生まれる
かも知れないという、ささやかな期待。それ
がずっと私の背中を押し続けてきた。障害
当事者が町に出て、共に働き、暮らす未来
を夢見ながら、私は今日も車いすをこぎ、ペ
ンを握り、新しい『コンペイトー』の創刊準備
を進めている。金平糖のように、一つひとつの
声をかけがえのない一粒として育て、紡がれ
た物語の先で、もっと優しい社会の風景が
広がっていくことを願つてやまない。

焦りもあり、通勤や外出の障壁も大きいなか、障害者年金を貰いながら家に閉じこもつて暮らすことが申し訳なく思えたのだ。しかし、福祉制度を利用してサポートを受けながら自身の生き方を見つめ直すうちに、

べっぷ優ゆう「思わず頬がほころぶこだわりのクッキー」

ココア・ピスタチオ
濃厚なココアに
ピスタチオの食感がアクセント
根強い1番人気の商品

白コロ クッキー
フワッとサクッとホロッと
冬にしか味わえない食感

うみのいきもの クッキー
塩味と甘味がなんとも絶妙!
子供から大人まで楽しめる
止まらぬ美味しさ

米鬼のおたから
大分名産ザボンを甘酒で
丁寧に煮詰めあしらった
ホロサク食感のクッキー

米鬼のかなぼう
仲間みんなで一本一本丁寧に
生地を転がし伸ばして作る
ボキッカリ食感

季節のクッキー

うみのいきもの クッキー

アーモンド チュイール

「手間ひまと素材への想いが詰まつた一枚 ——べっぷ優ゆうが届ける至福のクッキー——」

国産小麦の香りがふんわりと広がり、奄美
産きび砂糖のやさしい甘さに思わず頬がほこ
ろぶクッキー。そんなこだわりの味わいを生み
出るのは、社会福祉法人「べっぷ優ゆう」。販味
期限が約2か月と短いのは、保存料を使わず、
赤ちゃんからお年寄りまで安心して食べられる
ことを目指しているから。生地作りから成形、
袋詰めに至るまで、すべて手作業で仕上げるた
め「手間ひま」が惜しみなく注がれている。

ココアやマープルといった定番のほか、桜やス
ノーボール、節分にちなんだ「おにクッキー」など
見えた目も楽しい季節限定も充実。NPO法
人BEPPU PROJECTとのコラボ「おおいた建築
クッキー」や道の駅「たのうらら」限定商品も展
開し、地元のお土産として人気を集めている。

20年以上愛されるクッキーを作っているのは、
障害のある利用者（「仲間たち」）。彼らにとつて
大切なのは、「おいしかったよ」という声を励み
に、新しいアイデアを形にする創意工夫と職人
の気概。生産量は多くないが、素材と技術に妥
協しない姿勢が一枚一枚のクッキーに凝縮され
ている。贈り物に喜ばれ、リピーターも多い理由
は、その真っすぐな想いと品質の高さにある。

さらに、地元の酒パックを再利用した手漉き
紙も製造し、クッキーのパッケージにも活用。「全
種類のクッキーが揃うのは事業所だけ。事業所
限定商品もありますので、ぜひいらしてみてください」と職員の黒田さん。ギフトセットの注文も
可能で、こだわりの詰まつたおいしさと温もりを
体感できるのは、ここならではの魅力といえる。



作業手順がわかりやすいように鉄板に目印をつけたり、グラム数を数値と図で示した表を作ったりと、工夫を施しているおかげで、特性や得意・不得意が違う仲間たちも、それぞれが活躍できる持ち場を見つけやすくなったという。

Web Instagram



べっぷ優ゆう
住所/別府市内竈1256-10
TEL/0977-27-6333
営業時間/月～金曜日 8:30～17:30
定休日/土・日曜日

或る焙煎所 「最高の一一杯をつくるために」



珈琲店とはせずに、
あえて焙煎所という名にしたのには理由がある。
最高の一一杯をつくるために、
最高の豆を、最高の形でお届けしたい。
そのこだわりがここにある。

「最高のコーヒーを提供するために」

2024年8月に大分市長浜にオープンした珈琲スタンド「或る焙煎所」。

ここ「或る焙煎所」は、大分市の福祉企業「株式会社ARU」が手掛けており、自家焙煎した豆をひとつひとつ手作業で選別し、袋詰めからシール貼り、ラッピングなど、商品になるまでの全ての工程を丁寧にしっかりと時間をかけて行っている。

店内に入ると、一番目に飛び込んでくるのは、大きなオブジェのような迫力ある焙煎機。この焙煎機は100種類程のプログラムの中から、その豆に合った最適な温度・風量・時間でコントロールし、焼きムラのない最高の焙煎を可能にする。

ここで焙煎された豆を使った代表メニューが「或るブレンドコーヒー」（ブラジル、タンザニア、

ホンジュラスで生産された3種類の豆をブレンドし、深煎りに焙煎して仕上げたもので、リッチな質感と深いコクを味わえる至福の一一杯となっている。このほか、芳醇な香りを堪能できる「スペシャルティコーヒー」や、口当たりの良いカフェラテなど（約15種類のビバレッジ）を取り揃えており、メニューが豊富なのも嬉しい。また、自家焙煎した「こだわり」のコーヒー豆やドリップバッグも、店頭はもちろん、オンラインショップでも購入できる。

「オープン以来、地域との繋がりが深まっていることを実感している」と、店長の赤木さんは話す。「或る焙煎所」は、安らぎとくつろぎの時間を地域から発信し続けている。



Web Instagram



テイクアウト専門 自家焙煎珈琲「或る焙煎所」
住所/大分市長浜町1丁目7-6 塩九升ビル 1F
TEL/097-576-9599
営業時間/10:00~16:00（祝日は12:00まで）
定休日/日曜日 ※土曜日の不定休あり
※Instagramで営業日を確認の上ご来店ください
P/3台あり



イラストレーターとして活動している
「こつちゃん」とこと、秦ひとみさん。
障害を抱えながらもポジティブに
描き続ける彼女の、
イラストに対する特別な想いを伺いました。



イラストとの出会いは ドラマティック

水彩絵の具にアクリルガッシュやコピックなど様々な画材でパステルタッチに描かれた「にじいろイラスト」は、イラストレーター「こつちゃん」の代名詞である描法。水彩絵の具でパステルタッチに描かれたその絵は、見るものに安堵と優しさをもたらす。

「こつちゃん」が絵を描くきっかけとなつたのはドラマティック。まだ幼稚園に通っていた「こつちゃん」が、門司港に家族旅行に行つた時のことで。港で風景画をスケッチしていた中年の男性、その絵に幼心ながら一瞬で魅入られた。軽快なタッチで生まれていく一枚の絵に胸が躍つた。「わたしも描いてみたい」小さな女の子が熱心に見ていることに気づいたその男性は、「絵が好きなの? 鉛筆・あげようか」と、持つていた黒鉛筆をそつと手渡してくれた。その瞬間、「こつちゃん」のイラスト人生の歯車がゆっくり回りだした。最初は、漫画やアニメの模写から始まった。描いた絵を友達や家族にあげると喜んでくれた。

「絵を描くことはなんて楽しいんだろう! みんなが、私が笑顔になる!」

虹色に描かれた 想いと願い

2011年、高校2年生の時に、過度のストレスから統合失調症を発症。幻聴や幻覚に悩まされ、登校や一般生活が困難になった「こつちゃん」。

その苦しい状況下で大きな支えとなつたのは、幼少時から描いてきた大好きなイラストだった。闘病中は無心に描いた。出来上がったイラストが喜んでもらえると、自分を受け入れてもらえたという温かい感覚に包まれ、苦しい気持ちから何度も救われた。そうした中、誕生したのが「にじいろイラスト」。今はどしゃぶりの雨でも、いつかは必ずその雨は上がり、その向こうには七色の綺麗な虹が現れる。だから大丈夫! 私もそうなりたいと思いを馳せて、願つて、虹色のイラストを描き続けた。そして現在も、この美しいイラストで癒しと幸せを発信している。

やんは、障害者であることは隠さず、それも自分の個性として捉えて前向きに活動をしている。「人は敵意を向ければ敵意となつて返つてくる、でも好意を向けると好意となつて戻つてくる、それはすごく実感しています。何事も否定から入らず、わかり合おうと試みると、相手を思いやる優しい世界で満たされるんですけどね。そうしたらきっと残酷な争いではなくなるんじゃないかなと思うんです」

そう語る「こつちゃん」は、常に誰かの幸せを願つている。その想いがイラストに乗り、希望となつて多くの人に届くのだろう。それが「こつちゃん」のイラストの根幹にある。

現在、大分県内の民間企業や行政機関からの仕事の依頼も増え、順調にイラストレーターとしての実績を積み上げ続けている「こつちゃん」。就労継続支援事業所での勤務を経て、2024年にフリーランスとして独立開業。もっと多くの方々に自分の絵を見てもらいたい! 世界を虹色に染めて、誰にとつても優しい社会の一部になりたい! と目を輝かせて語る。

福岡・大阪・東京での個展開催、そしてその先には世界進出! 夢は膨らむ。

「障害者への世間の理解はだいぶ変わってきたとはいはいるけれども、それでもまだ先入観が先行しているのが現実ですね」と話す「こつちゃん」。今まで先入観が先行しているのが現実ですね」と話す「こつちゃん」。今も統合失調症の症状が残る「こつち



コモール カフェ

別府市駅前本町9-7 高崎ビル1F

別府駅近くにあるコワーキングスペース。主に打ち合わせの時に利用しており、一人でも集中して作業ができるので自宅での作業に行き詰まつたときはここに来ると揃ることもあるそう。フリーランスにはありがたい場所だ。



明石文昭堂

別府市駅前町11-10 アークヒルズ

イラストに使う画材や文房具は主にここで購入。明石文昭堂でしか手に入らないインクやグッズもある。おすすめは、明石文昭堂オリジナルインクの「湯けむりミストブルー」。別府にお越しの際はぜひ。

「きれいなおうちより、

まつ白な漆喰と無垢材のぬくもりが
家族の思い出をそっと包み込む。
住まいが日々の幸せを育む「milkuch

株式会社アズ・コンストラクション
代表取締役社長
二宮 和敏さん



アズ・コンストラクション

手作りの自家製 milkuchen

「家づくりの敷居をもっと低くしたい」――そう語るのは、大分市の工務店アズ・コンストラクションの代表取締役社長・二宮和敏さんだ。家づくりは人生における大きな転機といえるが、従来は住宅展示場を巡り、営業主導で話が進むことが多かった。そこで二宮さんは、「家族にとってより身近で、心に残る家づくりを実現したい」という理念を掲げている。

「敷居をもつと低く」
——家づくりへの思い

いる。建築が始まる前から思い出づくりを始めることで、完成時には“家族のストーリー”が詰まつた大切な居場所に什上げることを目指す。

「一つのブランドが目指す
『家族の幸せ』」

アズ・コンストラクションには、「もう一つの住宅ブランド「Live Sumai(リバーサミー)」もある。パソニックの「テクノストラクチャー」工法を採用し、さらに安心である「器」の提供を重視している。家族一人ひとりのライフスタイルに合わせて、「強く、愉しく、紡ぐ」すまいづくりを提案する姿勢は、ミルクーベンと変わらない。自然や先人の知恵や想いを受け継ぐのか、最新技術による未来を導入するのかという違いはあっても、「家族が幸せに暮らせる家づくりを二人三脚で行う」という点は同じである。

サステナブルな暮らしと
コミュニティづくり

自然素材の木質纖維断熱材、漆喰や無垢材などを積極的に取り入れ、住まいをサステナブルに保つ工夫にも力を注いでいる。生産・解体時に出る産業廃棄物を少しでも減らすため、環境負荷の小さい資材を選び、古い家具をリメイクするなど「使える」ものを大切にしている。また、地域に増えつつある空き家をコミュニティファ



多様なニーズに応える
姿勢と地域密着の強み

A photograph of a modern kitchen and dining area. The ceiling is made of exposed wooden beams. The kitchen has light-colored cabinetry and a stainless steel sink. The dining area features a dark wood table set with various dishes and glasses, surrounded by chairs with green upholstered backs. A QR code and Instagram logo are in the bottom left corner.



昔の家具や、おばあちゃんが大切にしていたテーブルを、そのまま新築に持ち込むケースも多いという。家の中に“古い物が持つ味わい”を取り入れると、世代を超えてつながるあなたの家が生まれる。そういう人間らしい柔らかさこそ、家が持つ本質的な魅力だ。

Two QR codes side-by-side. The left QR code links to the product information for "リブすまい" (Ribsumai). The right QR code links to the product information for "ミルクーヘン" (Milkuhen).

株式会社アズ・コンストラクション
住所/大分市大字津守490-45
TEL/097-529-9888
営業時間/9:00-17:15
定休日(営業・設計)/水曜日 第1・3・5火曜日

ベースに改修し、イベントやスタートアップの拠点として活用する取り組みも進行中。住まいをただの器で終わらせることで、「家を中心に地域を元気にする」と循環を目指している。

企業理念は「感謝・感動・信頼」と、その「循環」。建てた家がもたらす感動や、人を思いやるやさしさはやがて信頼へとつながり、その連鎖が地域全体を豊かにしていく。大規模ではないからこそ大切にできる近い距離感で、家づくりだけでなく暮らしづくりに向き合い、多様な家族を支え続ける——それがアズ・コンストラクションの歩みである。



合同会社 awesome voice 小川弘晟さん。

介護サービス LINK
住所/別府市野口元町3-24
看護サービス Aoi
住所/大分市須賀1丁目9-32
TEL/0977-76-8146



合同会社 awesome voice 小川さん

「前向きに生きていいればなんとかなるけん」

「今、めっちゃ幸せなんですね！」

とびきりの笑顔で話す彼は24歳の小川弘晟さん。

別府市の訪問介護事業所「介護サービス

LINK」で広報を担当している。

先天性の重度身体障害者としてYouTubeやSNSを通じて発信を行っているが、かつては内向的で、親に従うばかりの少年だった。そんな彼の転機となつたのが、介護サービスLINKと看護サービスAwesome voiceで代表を務める、佐野貴大さんとの出会いだ。重度身体障害者でありながら、富士登山や海外視察など、いきいきと活動する姿に憧れた。

ADL（日常生活動作）を自宅で習得すべきと考える両親に対し、重度障害者リハビリセンターに入所し早く就職したいと、初めて自分の思いを述べた。努力を重ね、短期間でADLを習得し就職。自分だからこそできる障害者支援を考え始めた折、佐野代表の手がける介護サービスLINKの「まずは自分から」の理念に共鳴し、転職を決めた。LINKの良さは「従業員が幸せそうなこと。自分が幸せも大切にしながら、利用者様の人生を考える介護士の姿を伝える仕事ができ幸せです」「まずは自分から」の行動がプライベートにも影響を与え、最近、婚約したという。

「前向きに生きていいればなんとかなるけん」、障害のある方も無い方も心に行き詰まつたら、「ふつとLINKに寄つてみたら、『幸せ』へと案内してくれるはず。」

執行役員 アクサFA推進本部長の山内康晴さん。
生涯のアドバイザーとして伴走する。

アクサ生命担当者の思いをストーリーとして紹介した配信動画には、山内さんも制作に携わっている。

アクサ生命保険株式会社
大分FA支社
住所/大分市高砂町2-50
OASISひろば21 3F
TEL/097-513-5702



日本は今、人生100年時代。生き方も多様化し、長い人生の中で様々なライフイベントの乗り越え方に悩むこともある。そうした時、人生の将来設計に合わせた計画的なライフプランニングがあれば心強い。注目したいのが、アクサ生命の「ライフマネジメント®」だ。ライフマネジメント®は、人生の目的やビジョンを重視。その目的を達成するために何を達成したいかという「目標」を設定し、実現のための「ライフプラン」をFA（ファイナンシャルプランアンドバイザー）と作成する。生命保険は「売りつけられる」という印象が強いが、執行役員アクサFA推進本部長の山内さんは業界の常識を変えたくて、ライフマネジメントコンサルティングを開始。「ライフマネジメント®」、「人生を経営する」を商標登録したのは「お客さまの人生に伴走するパートナーでありたい」という覚悟の表れだ。

少子高齢化や貧困化が進む日本は、課題先進国。先行きが不透明で今後はさらに自分で人生の舵を切り、心身を守る必要がある。「ただ、ひとりで将来を逆算して今を見直すのはなかなか難しい考え方を「将来思考」にする場として、気軽に私たちを頼つてほしいです」

誰もが自分らしい人生を経営し、生きていこうとが当たり前の社会に――。山内さんの願いは誰とも生き方を競わなくていい今の時代、深く刺さる。私は何を「人生の目的」にしたくて、どんな豊かさを幸せと感じるのか。アクサ生命のライフマネジメント®は、そんな気づきも授ける。

*脚注:「ライフマネジメント®」はアクサ生命保険株式会社の登録商標です。

誰かの人生に“伴走”する
アクサ生命の「ライフマネジメント®」

日本は今、人生100年時代。生き方も多様化し、長い人生の中で様々なライフイベントの乗り越え方に悩むことがある。そうした時、人生の将来設計に合わせた計画的なライフプランニングがあれば心強い。注目したいのが、アクサ生命の「ライフマネジメント®」だ。ライフマネジメント®は、人生の目的やビジョンを重視。その目的を達成するために何を達成したいかという「目標」を設定し、実現のための「ライフプラン」をFA（ファイナンシャルプランアンドバイザー）と作成する。

ともに歩む

共生社会を目指して
当事者の暮らしを支える方々の活動を
取材してきました。



AXIS(アクシス)代表
あべかつみ
安部克巳さん



確かな技術と豊富な経験が、お客様の
思いをしっかりと形にしていく。安部さ
んが手掛ける仕事の背景には、優しさ
と笑顔が溢れている。

AXIS(アクシス)
住所/[大分]大分市大字下判田163-2
[別府]別府市野口元町4-21
TEL/090-4515-9597

超高齢社会となつた近年は、お客様のニーズも変わつてき
ているそうだ。一般住宅や店舗の段差解消、手すりの取り付
けなど、高齢者や障害者向けのリフォームが増えている
とのこと。介護士の資格も併せ持つ安部さんは、バリアフリー
などの福祉に造詣が深いこともあり、その世界では期待以
上の施工を提供し、お客様の満足度が高いと評判である。
イメージはできても、言葉にして施工業者に伝えるのはな
かなか難しい。安部さんは長年の経験と実績から、お客様の
「こんなふうにしたい」という要望が感覚でわかるという。「そ
うそう、そんなふうにしたかったんよ」と喜ばれることが何よ
り嬉しいと、安部さんは微笑む。

「内装+福祉」AXISという強み

AXIS(アクシス)の代表を務める安部さん。内装業一筋
40年あまり。大分県でも指折りの職人だが、会社のWebサ
イトなどはない。口コミでの仕事の依頼がほとんどで、知る人
ぞ知る業界きつての名工といえる存在だ。これまでにアミュプ
ラザをはじめ、小倉井筒屋、スターバックス、ロッテリア、マクド
ナルドなどの有名企業の店舗内装のほか、一般家庭の住宅内
装やリフォームも多く手掛けてきた。仕事の依頼の多くはリ
ピーターであるということからも、安部さんの仕事のクオリ
ティには定評があるということがわかる。

「内装のプロフェッショナル」

AXIS(アクシス)の代表を務める安部さん。内装業一筋
40年あまり。大分県でも指折りの職人だが、会社のWebサ
イトなどはない。口コミでの仕事の依頼がほとんどで、知る人
ぞ知る業界きつての名工といえる存在だ。これまでにアミュプ
ラザをはじめ、小倉井筒屋、スターバックス、ロッテリア、マクド
ナルドなどの有名企業の店舗内装のほか、一般家庭の住宅内
装やリフォームも多く手掛けてきた。仕事の依頼の多くはリ
ピーターであるということからも、安部さんの仕事のクオリ
ティには定評があるということがわかる。



「32年前に今のアパートに住み始めた
ことが自分の人生に大きく影響した」と
丸子さんは語る。「ここに住んでいる
からこそ、今の自分がある」



ぐつどらいふ大分
住所/別府市亀川浜田町33組18-4
サクセスハイツマルコ101
TEL/0977-75-7775



好きな場所で生きる権利を支える —別府から広がる自立生活の挑戦

大分県別府市に拠点を置く自立生活センター「ぐつどらい

ふ大分」は、重度障害者が地域で自分らしく暮らすための支

援を行う団体だ。代表の丸子さん自身、42年前に交通事故

による頸髄損傷で車いす生活を送る。当初は別府重度障害

者センターで出会った仲間と建てたアパート「サクセスハイツ
マルコ」で暮らしながら「どんなに重度の障がいがあつても、介

助者を活用すれば自立できるはず」と感じ、研修や活動を重

ねてきた。2005年の設立以降、重度訪問介護制度の拡充

を国や自治体に訴え続け、体験宿泊やピアカウンセリングな

どを取り入れた自立生活プログラムを実施。親との同居を

経て「歩踏み出せない人にも、少しづつ練習しながら『一人暮
らし』」を実現できるようサポートしている。「障害は誰にでも

起こりうる。本人と周囲が互いに尊重し合い、制度を学んで
行動すれば、重度障害者でも地域で当たり前に暮らせる」と

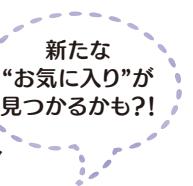
丸子さん。また、「介助者を確保するためにも、待遇改善の体

制づくりとともに訴えていかねばならない」とも語る。

コロナ禍で交流イベントや研修に制限がかかった時期も
あつたが、会報「ぐづあ通信」の発行などを通じ、当事者や家
族へ情報を届けてきた。その積み重ねが、丸子さんと仲
間たちの原動力となつている。「何年かかっても、自立を望む
当事者に寄り添い続ける。この拠点から、重度障害者が地域
の当たり前の風景として生きられる社会を実現するための
チャレンジは続く」と丸子さんは呼びかける。



わたしのイチオシ! Book Review



地元の本読みの方に、おすすめの一冊を選んでもらいました！

私がご紹介します

書肆ゲンシヤ
店主
藤井慎二さん

驚異の陳列室をテーマに古今東西の珍品・珍本を蒐集するゲンシヤを運営。「ムー」に連載中。「TOCANA/トカナ」「ソトコト」「ダ・ヴィンチ」「POPEYE」「BRUTUS」「Badi」「サイダー」に掲載される。



自閉症の僕が 見ている景色

自閉症の13歳の少年が、自らの自閉について、わかりやすく、丁寧に説明したエッセイ。自閉症の子どもを育てるイギリスの作家が妻とともに英訳して日本を含め世界でベストセラーとなり、映画化もされた。「自閉の世界は、みんなから見れば謎だらけです。少しだけ、僕の言葉に耳を傾けてくださいませんか？」

『自閉症の僕が飛びはねる理由』東田直樹 KADOKAWA／角川文庫

私がご紹介します

ビブリオフィル書店人
ゆーたろーさん

和洋、老若男女、オールジャンルの本を読み漁り続ける、まさに本に取り憑かれた書店人。膨大な知識量の彼が薦める本は、どれも魔法がかかったように面白い！



すべての、 白いものたちの

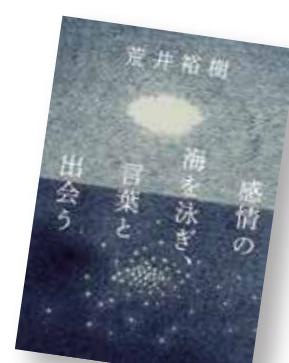
2024年ノーベル文学賞受賞作家のハン・ガンによる、存在と喪失を描いた小説。生まれてまもなく亡くなった姉と、姉が生きていなければ生まれなかつたであろう私。自分の中でくすぶり続ける姉という存在と向き合うため、私は「白いもの」について書くことに決めた。ハン・ガンの最初の1冊としてもおすすめ。

『すべての、白いものたちの』ハン・ガン 河出書房新社

私がご紹介します

詩人・エッセイスト
豆塚エリさん

詩人・エッセイスト。自己の経験を見つめ直し、「生きづらさ」や「死にたい気持ち」をテーマにした著作「しにたい気持ちが消えるまで(三栄)」で広く共感を呼び起した。自分の体験に基づき寄り添う言葉で、多くの読者を励まし続けている。



溺れそうな夜に、 そっと言葉で呼吸を。

書く行為は生きづらさと同居しながらも、自分の「在り処」を見失わないための指針となり得る。「綴ることは、息継ぎすること」。息継ぎは苦しいけれど、それでもしなければ溺れてしまう。日々に追われてくたくたになった夜や、些細な一言がどうしても気になって眠れない夜に、ベッドの中でこの本を開いてほしい。そっと息を吸うために。

『感情の海を泳ぎ、言葉と出会う』荒井裕樹 教育評論社

この春おすすめのギフト

spring gift



ステイックによって香りが拡散するシステムを利用したルームフレグランス。

価格: 500ml 15,950円(税込)～



KOHARU—コハルー

④ 大分市生石2-3-20
⑤ 097-532-6089
⑥ 11:00～19:00
⑦ 木曜日(祝日は営業)

春のギフトにぴったり！
簡単スタイリングの新定番



ストレート、カール、
ボリューム、前髪、寝癖まで
おもいのまま。

髪をいたわりながら
手軽に使える一台。

価格: 18,700円(税込)



AKIYOSHI
SIS AKIYOSHI

④ 別府市北浜1-4-4 よい天狗通り
⑤ 0977-22-4216
⑥ 10:00～19:00
⑦ 日曜日(SISは日・月曜日)



イラスト・デザイン・写真
小野 雄一
(こんぺいとう企画 理事)

『コンペイター』の制作では、デザインとイラストに加えて、カメラマンとしても関わらせてもらいました。撮影では、自然な笑顔を引き出そうと話しかけたり、うまく撮れずに再撮影をお願いしたりと、なかなか奮闘(笑)でも、その一瞬一瞬に詰まった「らしさ」を形にできたのは、本当に楽しい経験でした。イラストでは、取材させていただいた方々の笑顔を表紙に取り入れ、カラフルな色彩で表現しました。いろんな個性が集まって、まるで虹のような世界になる。そんな日常を目指してます。



GEOGRAPHIC.

KENJI INOKUCHI DESIGN SPACE

いのくち
井口 健司

この一冊のデザインを通じて、「誰もが共に暮らす町の魅力」をどう表現できるかを考え続けた時間でした。取材の温かい言葉や、写真に映る生き生きとした表情を、紙面のレイアウトや色彩でどう伝えるか。悩みながらも、関わるすべての人の想いを形にする楽しさを感じました。『コンペイター』が、手に取る人の心をそつと照らすような存在になれたら嬉しいです。



ライター
中塚 翔大
(こんぺいとう企画 副理事)

人間関係の葛藤や福祉への違和感を抱きながらも、そういった出来事さえも人生の出会いや決断に繋がっていくと思うと日常が少し楽観的で前向きに捉えられるような、不安感が減っていくような感覚が残るインタビューとなりました。この『コンペイトー』が人と人を繋ぐきっかけになることを願っています。



ライター・編集
豆塚 エリ
(こんぺいとう企画 理事長)

『コンペイター』は、人と町がつながるきっかけになればと作りました。取材を通して出会った人々の言葉や表情には、その人らしさが詰まっていて、書きながら何度も心が動かされました。

「障害がある・ない」にかかわらず、それぞれの暮らしがあり、多様な色が混ざり合って一つの風景になる——そんなイメージを誌面に込めています。この一冊が、新しい発見や、立ち寄りたくなる場所との出会いにつながれば嬉しいです。

生きづらさを抱えるひとたちが
自分らしくいられる居場所を見つけるために

在处

arica

NPO法人こんぺいとう企画が贈る、
あなたの“心の拠り所”となるメディアサイト

NPO法人こんぺいとう企画が贈る、
あなたの“心の拠り所”となるメディアサイト

<https://arica.site/>
2025年初夏公開予定

ひとりばっちりでも
あなたがあなたらしいいられる居場所が
きっとどこにある。
いつしょにさがしてみませんか?

この春、自分の 「ありか」を見つけよう。



フォトグラファー
写真家
sayaka yoshioka

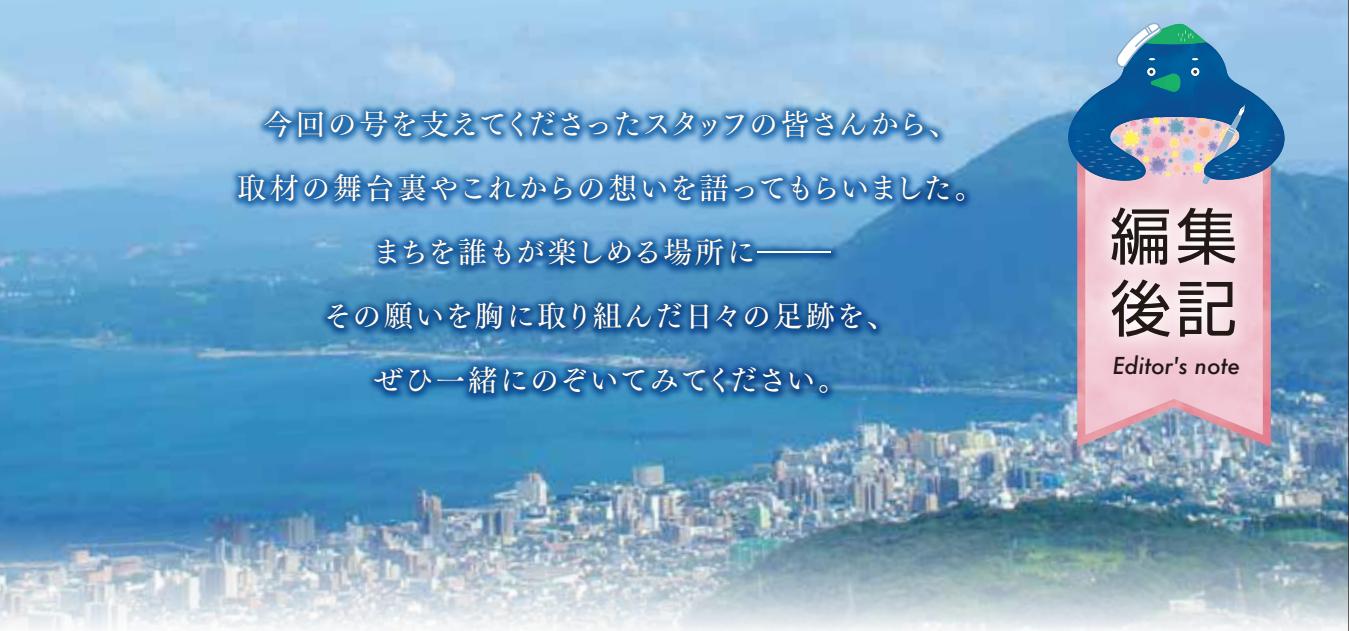
今年度で5年間続けてきた介護福祉士を辞め、夢である写真家の道を歩むことを決めました。

そのタイミングで、ずっとしてみたかった福祉系の撮影に携わらせていただき嬉しかったです。今後は大分県に根付いたイベントの撮影、素敵なお店や施設等の撮影をしていきたいと思っております。当たり前の幸せを残すことをコンセプトに、お客様の想いにより沿いながら頑張っていきます。



フォトグラファー
August

星空や風景、花などを中心に写真を撮っています。豆塚エリさんの写真をお手伝いすることになり数年が経ちました。お手伝いする中で自分の知らなかつた多くの世界を知り、様々な事を考えるようになりました。引き続き少しでも多くの関わった方のお手伝いが写真を通じてできればと思います。



編集後記

Editor's note